



Index

表紙寄稿：
埼玉大学 大学院 理工学研究科
王 青躍氏
環境ネットワーク埼玉より
会員活動の報告
事務局からのお知らせ



地球温暖化や PM2.5 にみんなで立ち向かおう

埼玉大学 大学院 理工学研究科 王 青躍

この冬、関東各地では記録的な大雪に見舞われ、東京では積雪が25センチとなり、1969年以来45年ぶりの大雪となった。地球寒冷化かと思われたが、実に近年、地球温暖化に伴い、大陸由来の黄砂飛来が早まり、スギ花粉飛散ピークと重なって度々観測されている。本来、スギ花粉は人間の鼻腔や口までは侵入するものの、下気道への吸入は無いと考えられてきた。しかし、私の研究では、越境大気汚染があわさった黄砂が、都市部に移流してきたスギ花粉と接触することで、アレルゲンが花粉から放出されかつ増幅される。スギ花粉のアレルゲンもPM2.5の微小粒子に多く存在して大気中に長時間浮遊していることを明らかにした。その結果、スギ花粉のアレルゲンがPM2.5の主成分である自動車排気微粒子、金属粒子、炭素成分などの大気汚染物質と同時に人体の鼻腔より深部の気管支や肺胞の呼吸器系下気道への健康影響を及ぼす可能性が示唆されている。

これまで、多くの国民がPM2.5の特性を十分に理解できないまま、ネガティブなイメージを伴いながら、話題が先行しているように思われる。今後、まず、過剰な反応をせず、国民みんなでPM2.5に関する正しい情報や知識を共有して、大気汚染物質から人体の呼吸器系を保護すれば、健康への悪影響を防ぐことができる。さらに、黄砂や越境大気汚染に関しては、日本国だけの地球温暖化や大気汚染対策による効果には限界的であり、アジア諸国との連携による国際的な取り組みが極めて重要である。





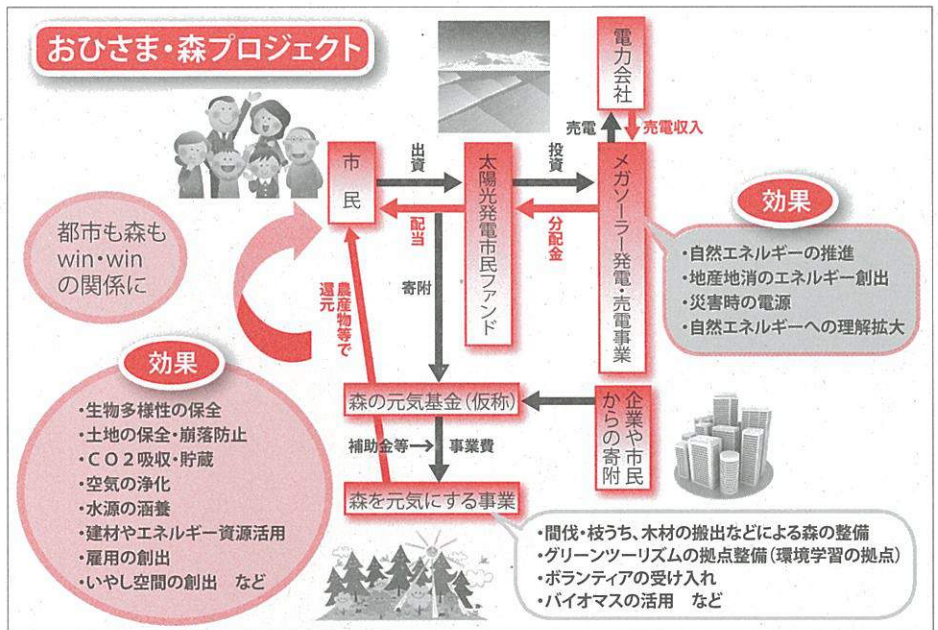
環境ネットワーク埼玉より

都市と森をつなぐ再生可能エネルギー協議会(報告)

今年度、環境省から「地域主導型再生可能エネルギー事業化検討事業」を受託して2年目となります。昨年度は、さいたま市や秩父市の関係者の参加による「都市と森をつなぐ再生可能エネルギー協議会」を組織化し、協議会の基に「秩父市森林バイオマス」分科会と「さいたま市太陽光」分科会を設置しました。協議会では、都市と森がつながることは、エネルギーだけでなく、人や経済も活性化し、ともに豊かに安全安心に暮らしていくことだと考えます。昨年度はさいたま市と秩父市の両市長による協力関係を文書化した協定書も交わすことができ、両市も参加しての検討会が盛り上がりを見せています。

今年度は新たに協議会の基にメガソーラー市民発電事業ワーキング会議を設置し、具体的な事業への展開を図るべく、FITを活用したメガソーラー発電の事業スキームや森林バイオマスを活用した熱供給事業などを検討しました。

ワーキングでは、メガソーラー発電事業の資金集めの一部に市民が出資するファンドが導入できないか、可能性について検討を行いました。市民ファンドを組成するためには、まず市民のファンドに対する意識について知ることが重要で、そのための調査を行いました。



<市民ファンド調査について>

森の整備事業に市民ファンドの配当の一部を寄附いただけないかとの質問に、ファンドという言葉になじめない、元本が保証されるのか、信頼性のある事業なのか、長期に高額を預けるのは抵抗があるなど様々なご意見をいただきました。結果を真摯に受け止め、まずは粘り強く情報を発信し続け、市民の皆さまにご理解いただくことが重要かと思いました。調査の詳細は当団体のホームページでご覧いただけます。

自然エネルギーで つながる地域の未来

日時 2014年 3月2日(日) 13:30-16:30(開場13:10-)

会場 大宮ソニック市民ホール 4階 (403・404)

参加費 無料

定員 100名

プログラム

1. 開会 主催者挨拶
2. 講演 「都市と森をつなぐためのエネルギー利用のあり方〜バイオマス熱利用を中心に〜」 講師 相川高信氏 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社環境エネルギー部副主任研究員)
3. 事例発表 「横浜水源・道志村の森林を活用する」 発表 大野航輔氏 (道志村地域おこし協力隊)
4. 都市と森をつなぐ再生可能エネルギー協議会 事業説明会
5. 閉会

主催: 都市と森をつなぐ再生可能エネルギー協議会
共催: 認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉

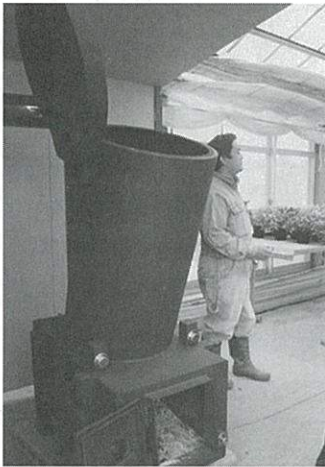
市民への情報発信の第一段として、事業の進捗状況の説明も兼ね、自然エネルギーについて理解を深めてもらうために「自然エネルギーフォーラム～自然エネルギーでつながる地域の未来～」を開催しました。開催日は3月2日、相川高信氏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社環境エネルギー部副主任研究員)にバイオマス熱利用を中心に都市と森をつなぐためのエネルギー利用のあり方について講演をいただいた後、道志村地域おこし協力隊の大野航輔氏から「横浜水源・道志村の森林を活用する」というテーマで事例発表を行っていただきました。当日は多くの方にご参加いただき、森の現状や課題、都市と森のつながり方や森林バイオマスについて考えるよい機会となりました。

次年度はさらに具体的な事業スキームを作りあげ、市民の皆さまへ活動や事業の見える化を図り、理解を深めていきたいと思っています。





薪の導入による吸収源の整備とCO2削減モデル事業



協議会の森林バイオマス分科会を「秩父森林バイオマスエネルギー活用コンソーシアム」に拡大し、薪の導入によるCO2削減を行いました。

樹木は炭酸同化作用によってCO2を吸収し固定するので、カーボンニュートラルとして扱われCO2は増えないとされています。今回は農業用薪ストーブを農業ハウスに設置してもらい、普段使用している重油や灯油の代わりに、薪で熱を供給する取り組みを試みました。設置場所は、秩父農工科学高校の農業ハウス、秩父市内の農園レストランの農場、小川町の農場の3ヶ所です。秩父農工科学高校のハウスでは、卒業式用の花卉栽培を行っており、重油ボイラーをバックアップにして薪ストーブの熱を活用しています。秩父地方は2月の大雪の影響で停電となりましたが、薪ストーブのお陰でハウスの中を加温することができ、花を枯らすことがなかったそうです。温暖化が進んでくると異常気象が現れてきます。その時の対応として、エネルギーを自給できる体制をとっておくことが重要かと考えられます。そのような中で再生可能エネルギーの期待はますます大きくなっていくのではないのでしょうか。

また、都市住民に森林バイオマスへの理解を深めてもらうために、薪拾い体験ツアーも開催しました。11月9日(土)、さいたま市民約20人で平久保地区の山林にて、間伐と薪拾い体験を行い、その後秩父農工科学高校にて実際稼働している薪ストーブの見学を行いました。参加者からは、「秩父の間伐材の利用の工夫について知り、間伐の大変さも実感できました。都市に住んでいるからこそ生活と森林のつながりを感じる貴重な機会になりました」との感想もいただきました。普段体験することのできない間伐体験など貴重な時を過ごすことができました。



第4回低炭素まちづくりフォーラムin埼玉 ～つながろう 広がろう エコの環～を開催しました。

1/19(日)
1/20(月)



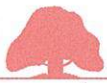
市民が自主的に開催している「低炭素まちづくりフォーラムin埼玉～つながろう 広がろう エコの環～」は今年度で第4回目を迎えました。今回は秩父市において、秩父市環境市民会議と共催で2日間行いました。

初日のフォーラムでは、基調講演に公益財団法人地球環境戦略研究機関・国際生態学センター長の宮脇昭氏をお招きし、「いのちを守るふるさとの森-ちちぶから世界へ-」をテーマにお話いただきました。85歳を超えた今も現役である先生の力強い話や日頃の活動の様子に、参加者も元気ももらいました。また、展示会場では秩父地域と県南地域の環境団体による活動パネルが並び、情報交換や交流ができました。

午後は分科会を開催し、「実践エコライフ」、「川・生物多様性」、「里山・生物多様性」、「都市と森をつなぐ再生可能エネルギー」、「環境まちづくり」の5テーマに分かれてワークショップやパネルディスカッション等を行い、低炭素社会づくりに向けた活発な意見交換を行いました。全体で240名もの参加があり基調講演、分科会ともに満席となりました。

翌日は、秩父市や秩父の市民団体の方に案内いただき、間伐材等を燃やして電気を作る「ちちぶバイオマス元気村発電所」での学習や吉田の歴史ある街並みを見学することで、知見を深めることができました。





うちエコ診断(報告)

家庭からの具体的なCO2削減対策として実施している、家庭向け省エネ診断「うちエコ診断」を、6月から12月までの間に計250件行いました。

今年度は、個人、自治体や企業等の職員に加え、「生活協同組合コープみらい」と連携することで、コープみらいの組合員へ診断を実施することができました。受診後、「太陽光発電を設置した」「低燃費車に買い替えた」「高効率給湯器に更新した」など削減効果の大きな取り組みにチャレンジした人もいました。受信後のアンケート結果からCO2削減量は87.9t-CO2と推定され、大きな削減効果を得ることができました。

「うちエコ診断」は、平成26年度から体制も新しく「家庭エコ診断制度」としてスタートします。詳細は、新年度になってからですが、当団体も家庭のCO2削減を目指し、参加していきたいと考えています。



事業所向け省エネ診断(報告)

(埼玉県省エネナビゲーター事業／環境省小規模事業所向け省エネ促進コンソーシアム)

今年度は2種類の対象の異なる事業所向け省エネ診断事業を進めました。

今年度で3年目を向える「埼玉県省エネナビゲーター事業」では、「埼玉県事業者向けCO2排出削減設備導入補助金制度」の影響もあり、当初の目標数を超え83件の診断を行いました。当団体は県からの委託を受け事務局を担当しました。

省エネナビゲーター事業は、ナビゲーター(診断員)が実際に事業所で診断を行った後、診断結果と各事業所に対応した改善策を報告書として提出する仕組みになっています。総勢28名いる省エネナビゲーターは、自主的な勉強会を定期的で開催するなど研鑽を積み、レポートも完成度の高いものに仕上げています。その結果受診者の満足度も高くなっています。

一方、環境省「小規模事業所向け省エネ診断による二酸化炭素の削減事業(コンソーシアム名:小規模事業所向け省エネ促進コンソーシアム)」では、年間エネルギー使用量15kL未満の事業所の診断を対象としており、商店街の店舗等が該当します。省エネナビゲーター事業と同様に、診断員が事業所へ赴き診断を行い、その結果を後日レポートにして提出します。レポートは各事業所の実情に合わせた運用改善や省エネ機器への買い替え等を提案しています。今年度は特に、HEMSを活用した電気の使用状況の見える化等も行いました。事業所の省エネはCO2の削減ばかりでなくコスト削減にもつながりますので、多くの事業所に診断を受けてもらいたいと思います。

◎事業者からの声

- ・ 営業中の診断は難しいと思っていたが、短時間で効率よく診断していただき、お客様にも迷惑をかけることなく済んだので大変助かった。提案内容も具体的で対応しやすいものでとても良かった。
- ・ ちょっとしたことでも経費節減につながるということがわかった。いろいろ教えていただいた。

その他の主な活動報告

- ・ 埼玉県電力自活住宅普及促進事業補助制度窓口(住宅用太陽光発電システム)
- ・ 埼玉県地球温暖化防止活動推進員研修会、啓発イベント開催
- ・ ホームページ、「彩の国環境ネットワークプラザ」運営
- ・ さいたま市地球温暖化対策地域協議会の運営支援
- ・ 埼玉グリーン購入ネットワーク事務局支援
- ・ さいたまカーフリーデー2013実行委員会
- ・ 一般社団法人地球温暖化防止全国ネットとの連携(ブロック会議、従事者研修、低炭素杯2014等)



● 会員活動の報告



お日さまクラブ・太陽光市民共同発電所5号機設置!

今年度は越谷市の大袋幼稚園に太陽光市民共同発電所第5号機「大袋ぴかぴかソーラーファーム」(4.4kW)を設置しました。設置にあたっては、越谷市民を始めとし、事業者や県民の方々から約200件以上のご支援をいただきました。

3月1日(土)あいにくの曇り空でしたが、関係者約40名が参加し点灯式を開催しました。子どもたちによる発電量を表示する表示盤への点灯や越谷市長からの挨拶、園児による鼓笛隊の演奏等が行われ、終始和やかな雰囲気の中での式となりました。

竹村厚子園長からは、「園児には太陽光発電に触れることで興味を持ってもらい、



将来、再生可能エネルギーの研究者になるような子が出てくれば嬉しい」とのお話がありました。

これからも市民共同発電の取り組みを県内に広げていきたいと思っています。

ESD事業への協力

ESD(持続可能な開発のための教育 Education for Sustainable Development)

ESDとは持続可能な社会の担い手を育む教育であり、人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育み、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むことに視点をしています。

2002年の国連総会において、日本の提案により、2005年から2014年までの10年間で「国連持続可能な発展のための教育(ESD)の10年」とすることが決議され、平成26年度で10年目を迎えます。

当団体は環境省事業「平成25年度持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESD環境教育プログラム」を受託し、地域版ESDプログラム作成のための埼玉県事務局を引き受けました。関係者や有識者等によるワーキング会議の設置やESDの啓発活動、さらに学校でのESDプログラムの実証授業を行いました。

実証校として日頃から環境教育に熱心に取り組まれている越谷市大袋東小学校にご協力いただき、総合的な学習の時間に実施されている「もっといきいきピオトープ」授業の中に、ESDのプログラムを導入していただきました。授業の中では、生きものにとって地域とピオトープがつながるためにはどうしたらよいか、5年生全員で討論しました。この実証プログラムは埼玉県のパイロットプログラム例として、環境省の地域版ESDプログラムガイドブックに掲載される予定となっています。今後も地域でESDが広がり、持続可能な人材が育成されていくことを期待したいと思います。

ウォームスポット

冬の節電対策として、県内のウォームスポットを選定し、パンフレットやホームページで情報発信しました。

ウォームスポットとは、公共施設やショッピングセンターなど、多くの人が集まることができ、一緒に温まれる場所のことをいいます。ウォームスポットに集まることで、個々の家庭の暖房時のエネルギー使用量を減らすこと(省エネ)ができ、CO2削減につながります。

県内の市町村にウォームスポットの情報提供を呼びかけたところ、公共施設を中心に5市から18箇所の情報が寄せられました。

是非ホームページもご覧ください。

<http://www.kannet-sai.org/warmspot/>





事務局からのお知らせ

情報提供ツールをご利用ください

事務局では温暖化防止啓発用の展示パネルやDVD、ソーラークッカーや電球比較実験器等の貸し出しを行っています。配布用のパンフレットも各種取り扱っていますので、ぜひ活用ください。*詳細はホームページ参照。

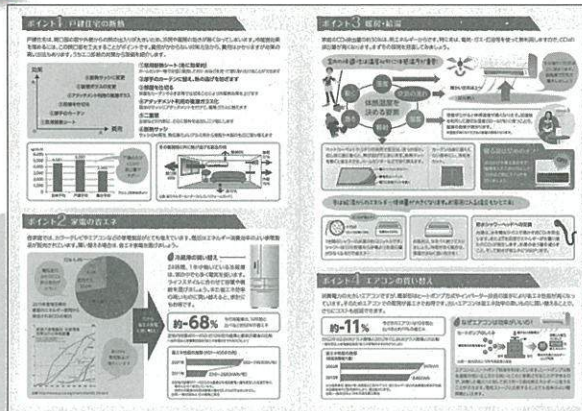
**家庭の省エネに関する
2種類のパンフレットが
できました!**

**スマートライフ
～省エネのすすめ～**

**スマートライフ
～冬のあったか省エネ生活～**

今回、具体的な省エネへの取り組み方法についてまとめたパンフレットを作成しました。

特にエネルギーを多く使う冬の省エネ術を紹介しています。



効果的な省エネのポイントが満載!!



エネルギー消費が多くなる冬をターゲットにしたパンフレット。

推進員もがんばっています!

埼玉県地球温暖化防止活動推進員が今回作成した“スマートライフ”パンフレットを活用し、家庭の省エネに関する勉強会を各地で行っています。推進員とは、県知事から委嘱された温暖化防止活動に取り組む市民の皆さんです。

2014年度からは埼玉県で新たに約30名の推進員が誕生し活動を開始します。引き続き、推進員活動にもご協力ください。

★会員募集★

活動を支援して下さる会員を募集しています!詳しくは事務局までお問合せください。
※市民共同発電所への寄附も随時募集中。

	個人	団体 (非営利)	団体 (企業)
正会員	5,000円	5,000円	50,000円
賛助会員	3,000円	3,000円	10,000円

*会費は年会費です(年度更新)。
*正会員は社員として議決権が付与されます。
*個人の賛助会費及び寄附は、税の優遇対象です。

■表紙の写真より■

雪の中の秩父市街と武甲山。CO2を吸収する森林の保全も温暖化対策には重要なポイントです。今年度は秩父地域との連携にも力を入れた一年でした。

★ホームページのリニューアル作業中!

ご意見、ご要望がありましたら、事務局までぜひご連絡ください。

スタッフから

事務局渋谷さんが退職することになりました。

平成26年3月を持ちまして退職することになりました。
会員の方をはじめ多くの方にご指導や暖かい声をかけていただき楽しく働く事ができました。ありがとうございました。
皆様の活動がよりよい環境に繋がっていきますように心より応援しています。

渋谷可奈子

編集・発行

発行日 2014年3月28日
埼玉県地球温暖化防止活動推進センター／認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉
埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎3階
TEL: 048-749-1217 FAX: 048-749-1218 <http://www.kannet-sai.org/>
閉館日: 土・日、祝日 開館時間: 9時～17時
※2012年5月より上記に移転しております。

情報やお知らせ等、是非お寄せください。

